

【2020年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

科目名	ナンバリング	区分(必修・選択)	単位数	履修年次	開講学期等
相談援助の理論と方法Ⅲ		必修(社) 選択(精.心)	2	3	前期
担当教員	研究室	電子メールID		オフィスアワー	
渡辺 裕一	講師控室	kyoumu		授業終了後に質問等受付	
授業の目的・概要	<p><目的>ソーシャルワークの理論・モデル、アプローチに関する知識を獲得し、技術を修得することで、ソーシャルワークを総合的に理解することができる。</p> <p><概要>本講義では、ソーシャルワークの理論・モデル、アプローチに関する知識を、様々なエクササイズを交えて理解を深める。ソーシャルワークの価値規範・倫理と基礎的な知識に基づき、実践に必要な理論・モデル、アプローチ理解するとともに、活用するために必要な技術を修得する。形式として、課題学習、同時双方向授業で授業を展開する。</p>				
学習上の助言	教科書を使用して学修を進める。事前のリーディング課題に着実に取り組み、授業内容の関連について自ら十分に振り返ることが、授業の目的達成に重要である。教わるのではなく自ら学ぶことが、学修に必要なことを把握したうえでの受講が望ましい。				
教科書	新・社会福祉士養成講座8 第3版 相談援助の理論と方法Ⅱ/編：社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規出版				
参考書	新・社会福祉士養成講座7 第3版 相談援助の理論と方法Ⅰ/編：社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規出版 新・社会福祉士養成講座6 第3版 相談援助の基盤と専門職/編：社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規出版 社会福祉士 相談援助演習 第2版/編：社会福祉士養成講座編集委員会/中央法規出版				
学生が達成すべき行動目標				関連卒業認定・学位授与方針	
①	ケースマネジメントの知識を獲得し、過程が説明できる。			社(2)	
②	理論に基づいたアセスメントの能力を獲得し、実践で活用できるようになる。			HSU(3)、社(2)	
③	グループのファシリテーションのスキルを獲得する。			HSU(4)、社(2)	
④	ソーシャルワーカーとしての臨機応変な対応技術を身につける。			HSU(4)、社(2)	
⑤	実際の現場でのソーシャルワーカーの実践について、理論・モデルを通して理解する。			HSU(4)、社(2)	
⑥					
授 業 計 画					
回	学習内容等	授業方法	学習課題・学習時間(時間)		
1	オリエンテーション (講義概要・講義の進め方・評価方法等の説明)	印刷教材での授業	授業内容の振り返り		1
2	【第1章 相談援助における対象の理解】 相談援助の対象領域を領域ごとに捉え、説明できるようになる。	印刷教材での授業	事前：第1章を読む 事後：授業内容の振り返り		4
3	【第2章 ケースマネジメント】 ケースマネジメントの基本とケースマネジメントの過程を理解する。アセスメントの意義と方法、また実際の事例でアセスメントを実践してみる。プランの作成、ケースマネジメントの特徴を理解する。	印刷教材での授業	事前：第2章を読む 事後：教科書事例のプランを作成し、次回持参する		4
4	ケースマネジメント演習について学習する。	印刷教材での授業	事前：第2章を改めて読む 事後：プランの見直しを行う		4
5	【第3章 グループを活用した相談援助】 グループを活用した相談援助の展開過程を理解する。	印刷教材での授業	事前：第3章を読む 事後：授業内容の振り返り		4
6	グループワーク演習について学習する。	印刷教材での授業	事前：第3章を改めて読む 事後：グループワークの振り返り		4
7	【第4章 コーディネーションとネットワークング】 連携や協働の基盤をおさえ、有効に機能する手法を学ぶ。	印刷教材での授業	事前：第4章を読む 事後：授業内容の振り返り		4
8	【第5章 社会資源の活用・調整・開発】 社会資源について理解し、相談援助における社会資源の開発の意義を学ぶ。	同時双方向型授業	事前：第5章を読む 事後：授業内容の振り返り		4
9	【第6章 さまざまな実践モデルとアプローチⅠ】 実践モデルを理解し、実践展開で活用できるようになる。	同時双方向型授業	事前：第6章全体を読む 事後：授業内容の振り返り		4
10	理論と実践モデル、アプローチの意味について学習する。	同時双方向型授業	事前：第6章の該当ページを読む 事後：授業内容の振り返り		4
11	治療モデルについて学習する。	同時双方向型授業	事前：第6章の該当ページを読む 事後：授業内容の振り返り		4
12	生活モデルについて学習する。	同時双方向型授業	事前：第6章の該当ページを読む 事後：授業内容の振り返り		4

【2020 年度/専門科目領域/専門科目群/福祉心理学科】

13	ストレングスモデルについて学習する。	同時双方向型授業	事前:第6章の該当ページを読む 事後:授業内容の振り返り	4				
14	ジェネラリスト・ソーシャルワークの展開と実践モデルについて学習する。	同時双方向型授業	事前:第6章の該当ページを読む 事後:授業内容の振り返り	4				
15	前期講義のまとめ	同時双方向型授業	事前:全体の該当箇所を読む 事後:授業内容の振り返り	7				
試	定期試験 達成度評価・評価のポイントを参照							
達成度評価								
総合評価割合 (%)		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計	
		50	0	10	0	40	100	
総合力指標	知識・技術力	40	0	0	0	0	40	
	思考・推論・創造する力	10	0	0	0	10	20	
	協調性・リーダーシップ	0	0	2	0	0	2	
	発表・表現伝達する力	0	0	2	0	0	2	
	コミュニケーション力	0	0	2	0	0	2	
	取組みの姿勢・意欲	0	0	2	0	20	22	
	問題を発見・解決する力	0	0	2	0	10	12	
評価のポイント					フィードバックの方法			
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点						
試験	①	✓	講義で学んだ知識を確認する。 試験では、講義中に説明した内容やテキスト及び配布資料から出題する。	試験結果を掲示する。				
	②	✓						
	③							
	④							
	⑤							
	⑥	✓						
レポート	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
成果発表	①		講義のテーマに応じてグループワークを実施することがある。その際に個々のワークへの取り組み状況やメンバーとの協調性、リーダーシップの発揮状況、発表者の発表内容等を評価する。	個々のワークやグループワークでの取り組み状況の適切な方法を、その都度説明する。				
	②							
	③	✓						
	④	✓						
	⑤							
	⑥							
ポートフォリオ	①							
	②							
	③							
	④							
	⑤							
	⑥							
その他	①	✓	毎回講義のテーマに応じた課題を講義中に出題します。その課題への取り組み状況や内容等を評価する。また、しっかりと課題に取り組んでいるかの姿勢や意欲も評価する。 さらに、毎回の講義の感想を記載し、その内容からしっかりと講義内容が理解できているかや講義への積極性も確認する。	質問事項や課題に対する回答について、必要な場合は次回の講義時に説明する。				
	②	✓						
	③	✓						
	④	✓						
	⑤	✓						
	⑥	✓						
備 考								
<p>Microsoft Teams をつかった同時双方向型授業を行う。課題ダウンロードや映像共有を行うため授業時は通信容量が無制限のWi-Fi環境を奨励する。尚、今後の新型コロナウイルス感染症の社会情勢によって再度シラバスの変更が行われることもある。</p> <p>教員の実務経験： 社会福祉士資格取得後、児童相談所一時保護所で児童指導員として2年、在宅介護支援センターでソーシャルワーカーとして2年、社会福祉協議会のボランティア・市民活動支援センターでボランティア・コーディネーターとして1年勤務した経験がある。</p> <p>実践的授業の内容： 本授業では、講義だけではなく、講義で学んだ内容をもとに、演習を実施し、学びを深める。</p>								